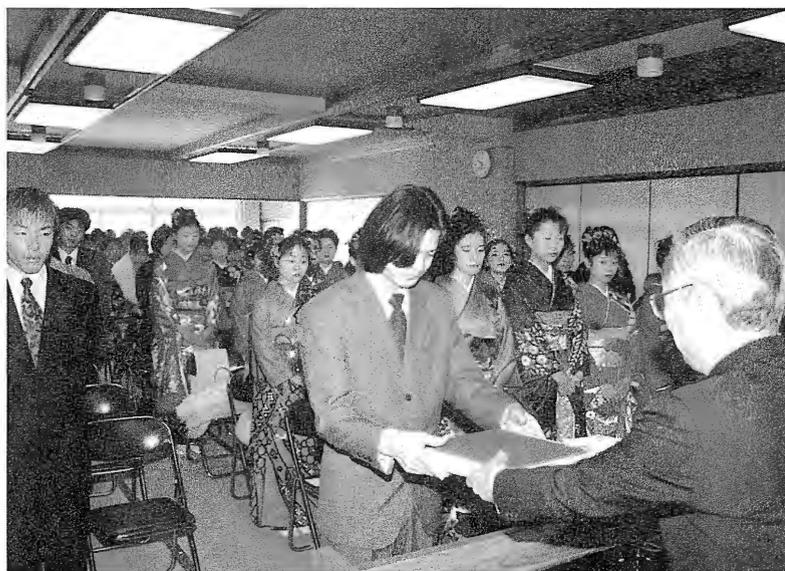


# たまかわ 1997 2

No.366

空と緑`新、呼吸する——広報TAMAKAWA



成人証書を受ける塩澤秀隆さん

がんばれ!!  
20歳  
たびたち  
大人への出発



時が立つのは早いもので、もう成人式を迎えようとしています。自分の心中では遙か遠いものだと思われていたけれど、いざ成人式と言われても実感が湧いてこないというのが現状です。

子供から成人になることで、社会的な立場が変わってき、より自覚や責任が重んじられてくると思います。現在



小林浩二さん(電崎)

自分は成人への憧れが半分と、もう少し子供でいたいという気持ち半分の状態です。

社会では二十歳という年齢で成人として扱われますが、人生八十年と仮定した場合、二十歳で成人になってしまおうというのは早すぎるのではないかと思います。これには、個人差があると思いますが、自分の場合は現在学生で、親

の職を持つている人に比べると、責任感というものが少し薄いのもかもしれません。

しかし、二十歳になった今思うことは、十八歳まで学生だった人間が、たった二年で成人として世間に入っていくのですから、そんなに何でもこなせる一〇〇%の人間になれる訳がないと言っています。実際、私たちはまだまだ家族や友達の助けを

の臍をかじっている状態です。で成人式を形式的に行うと言うことだけなのかもしれません。要するに、成人式と言うのは人生の通過点であって、形式的には行ったとしても、成人としては確立していないし、人生観を語る上ではまだまだ未熟で未成人と言う成人であって成人に成りきっていない状態だと思えます。形式だけは立派で内容の無

## “二十歳の決断”

箱根駅伝に出場したい

い、そんな成人式にするのではなく、成人になる前に、一人間としてどうあるべきなのかを認識しなければならぬと思えます。

大学に進学し家族のもとを離れ一人暮らしを始めて約二年が過ぎようとしています。大学に進学する切っ掛けになったのが陸上競技で、軽い気持ちで始めたのに今では生活の糧となると同時に心の支えにもなっています。

という人生の通過点で少し立ち止まって、まだ半人前の自分を見つめ直し、そしてさらに理想の人間に近づけるような生き方をじっくりと考えることの出来る機会と捉えて、今まで私を育ててくれた家族、先生方、友達の温かい愛情に伝えるためにも、精一杯、自分の道を歩んでいきたいと思えます。

ます。簡単に言えば走る事が好きなのだと思います。目標はただ一つ、箱根駅伝に出場すること。これは自分の目標でもあり、大学まで上げて頂いた両親、家族、自分を支えてくれた人達に対する最大のパフォーマンスなのだと思います。「言葉は要らない結果で示して見せる」

## “二十歳を迎えるにあたって”

家族と友人を大切にしたい



とうとう、今年の3月1日で二十歳を迎えることになりました。

今は、はっきり言ってまだ「成人」として社会の一員になることに実感がもてず複雑な心境でいっぱいです。

現在、私は実家を離れ、短大に通うために一人暮らしをしています。一人暮らしをして、初めて生活することの大



阪本洋子さん(電崎)

変さを感じている今日この頃ですが、それと同時に家族について考えることが多くなつた様に思います。私にとって家族は頼れる場所であり、自分がどのような状況にあっても私を私として認めてくれる。そういうところなんです。あまり上手に言えないのですが、私はそういう家族を大切にしていきたいと思えます。

もう一つ、大切にしたいものに友人があります。一人でいることが大切な時もありますが、友人がいて一緒に遊んだり、喜び合ったり、楽しんだり、励まし合ったりすることも自分にとって大切なことです。これから社会人になれば、今までの学生生活とは違って会える機会も減ってくると思えますが、そんなことに負けないよう、今の友人を大切にしていきたいです。

最後にありますが、二十歳を迎えるにあたって、私のやりたい大人像を考えてみました。なりたいたい大人像は基本的に「家族と友人と、そして自分を大切にできる人」があります。そして、やはり社会に貢献できる人、私の場合は人々の健康についてその増進と保持を常に考えていける職業に就いて、社会に貢献していきたいです。

今は成人としての自覚ははっきりつかめませんが、この成人式がそのきっかけになってくれると思えます。

今日、成人式をむかえ、とうとう私も一人の成人として認められたわけですが、正直なところ全く実感が湧きません。小さい頃に思い描いていたような人間になれたとは思えないからです。小さい頃に持っていた二十歳のイメージというものは、身体だけでなく精神的にも強くて、大人の雰囲気のある一〇〇%の人間



石森裕子さん(山小屋)

必要としなければやっていけない年齢だと思えます。ただ、少し違うのが会社で働いているにしろ、大学生や専門学校生であるにしろ、高校までの狭い人間関係でなく、様々な地域の様々な年齢層の人たちと接する機会を持ち、それによって色々なことを考え、学んできた二年間が私たちを少しずつ大人に近づけているのだということです。

私は今日の成人の日を二十歳

## “今までの自分をみつめ直して”



祝平成九年玉川村成人式

## 絵画と講演料を寄贈

熊田氏が村と社協へ



成人式の記念講演の講師として来村した熊田藤作氏から村に絵画(村のエコーハガキの原画)が寄贈されました。この絵画には、村の名勝地の「乙字ヶ滝」と伝統芸能「南須釜の念仏踊り」が描かれており、村では村民に広く鑑賞してもらうため役場ロビーに飾りました。

また、成人式の記念講演料全額が社会福祉協議会に寄付されました。

## 20歳がスタートです「国民年金」

国民年金の加入は、日本国内に住所のある20歳から60歳になるまでのすべての方が対象になります。もちろん学生も含まれます。

国民年金には老齢・障害・死亡といった誰にでも起こりうる事態に備えて、老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金があります。

ただし、保険料を納めていないと、これらの年金が受けられない場合があります。

20歳になったら必ず住民票のある市町村役場で加入手続きをして、保険料を納めましょう。



### 平成九年 玉川村消防団出初め式

平成九年玉川村消防団(佐久間安直団長)の出初め式は、一月五日(日)午前九時から須釜小学校校庭で行われました。消防団員二百六十名、婦人消防隊員二十二名、車両十一台が出動して、観閲や通常点検などキビキビした態度で臨み、火災シーズンに万全を期していました。

また、消防長官からの退職報償の伝達も行われ、次の方々に贈られました。

消防長官退職報償伝達  
◆第一号報償(二十五年以上勤続消防団員)  
●元団長 大竹勝義  
◆第二号報償(十五年以上二十五年未満勤続消防団員)  
●元分団長 真弓一治 曲山 幸男・鈴木尚治・石井義幸  
●元副分団長 森 永



統監(車田村長)を先頭に通常点検

### 消防小型動力ポンプ 中分団と北須釜分団へ

小型動力ポンプの引渡式の意欲をみなぎらせています。一月三十日午後一時三十分から役場駐車場で行われました。

式では、小型動力ポンプ一式の引渡書が車田村長から佐久間消防団長へ交付され、直ちに佐久間団長から北須釜分団の瀬谷分団長と中分団の角田分団長に渡されました。

引渡後、各分団員は新しい動力ポンプの操作等の説明を受けながら、消防予防活動へ



消防小型ポンプ一式

車田村長から佐久間団長へ引渡書を交付

### 玉川村総合運動公園の愛称 「スカイパークたまかわ」に決定

村では、現在進めている総合運動公園の愛称を昨年9月から募集をしていました。応募総数105点が村内外から寄せられ、去る1月21日(火)玉川村役場北庁舎議員控室で審査会が行われました。

厳正なる審査の結果、最優秀作品に「スカイパークたまかわ」(溝井秀之君、小高 一泉中学校2年)が選ばれました。溝井君は「空港のある村から『空』をイメージ。そして、そのイメージは、村民全員が自慢できると思いました。天(スカイ)と地(パーク)が合致した名称は、誰からも親しまれると思って名付けました。」最優秀作品賞として溝井君には、福島～札幌間の往復チケットが贈られました。

他の入選作品は次のとおりです。

◇優秀作品  
「スカイパーク玉川」 我妻浩之  
「スカイパレスたまかわ」 小原 修 弘子  
「クックの森(運動公園)」 関根  
「桜総合運動公園」 鈴木さく子



最優秀作品賞を受ける溝井秀之君



寄付金を贈る宗形さん(写真左・中央は奥さん)

### 村を旅立ち60年 宗形 誠さん(埼玉県鳩ヶ谷市)が村へ寄付

埼玉県鳩ヶ谷市在住の宗形 誠さん(南須釜出身・東京玉川会顧問)が、一月六日に役場を訪ね、宗形さんは、昭和十二年一月三日に本村から就職のため埼玉県川口市に旅立って今年で満六十周年を迎えました。これを記念に自分を育ててくれたふるさと玉川村へ十二万三千三百円を寄付されました。この金額は、本人が玉川村を旅立った日付から因んだ額としたそうです。

「私が村を発った日は、村は大雪。川口市の駅前に到着した時見えたネオンサインにはびっくりして、竜宮城に似た感じでしたよ」と懐かしそうに当時を回顧。その後、応召で中国大陸を転戦して歩いたりもしました。「いろいろな苦労をしましたが、私は常に『人は心』を人生訓として頑張ってきました」との話に村長も感動しきりでした。

### 図書室ニュース 新規購入図書230冊をロビーへ設置

◆一般図書  
昨年一年間のベストセラー上位図書を中心に購入  
脳内革命(春山茂雄)・神の吹かす風(上下)(シドニー・シエルダン)・創世の守護神(上下)(GハンコックRボヴァール)・須賀川、石川、岩瀬地方の百年・写真集他八十三冊。

図書室通いの楽しさを求めてください。

昔、情熱を燃やした本などの出会いに、熱い思いをよみがえらせ、動物記には新鮮な感動に涙ぐみ、歴史・紀行本などには、それぞれの時代や土地に思いをはせてください。きっと心を豊にさせてくれます。

図書室は、利用次第で大変便利です。蔵書も多く、求めるものはほぼ得られると思います。村民ひとりひとりが一度は利用してみたいと思います。

「こんな本まであるの」と、驚くことと思います。

◆児童図書  
主な児童図書の購入  
美しい日本の詩歌―みずみず

就改センター  
しい詩情・美しいことば十冊。絵で楽しく学ぶ―お国じまん大集合 十三冊 他百二十二冊新しくそろえました。

休みには読書の楽しみを  
小中学生の皆さん、土曜の休みが月二回ありますね。外に出て、いっぱい遊んだり、お手伝いするのもいいでしょう。そしてできるだけ本もたくさん読むようにしましょう。いろいろな本を読むのも楽しいですよ。公民館の図書を大いに利用してください。



新規購入図書の書棚を就業改善センターロビーに設置



### 主任児童委員に 小原さん再選

主任児童委員に小原重孝さん(写真・南須釜)が再任され一月八日に委嘱状が交付されました。小原さんは、引き続き今後三年間、村の民生児童委員とともに児童福祉活動に活躍されます。

自衛官募集相談員に  
車田さんと榊枝さん  
自衛官募集相談員に車田武夫さん(竜崎)と榊枝義二さん(北須釜)が委嘱され、役場村長室で委嘱状の交付式が行われました。お二人は今後二年間相談員として活動されます。

車田武夫 五七―二三四八  
榊枝義二 五七―二八五七



小針助役から委嘱状を受ける車田武夫さん

### 新春の風物詩 「やっちゃんごや」 山小屋で賑わう



燃え盛る南須釜のやっちゃんごや

一月十四日(火)、南須釜地区と山小屋地区では子供たちが藁や竹を材料にして造った小屋と正月のしめ飾りや門松などを一緒に燃やし、今年の無病息災を願う伝統行事「やっちゃんごや」が行われました。

南須釜地区では、南須釜地区の中学生と小学生の五名が、山小屋地区では、中学一・二年生の七名が主体となって、旧年中に小屋を設営しました。当日は、夕方から地区の人々が、正月飾り等を手に小屋を訪ねて甘茶をこ馳走になり、七時三十分頃になると小屋に着火。瞬のうちに炎が立ち上がり、観客から歓声があがりました。



小林教育長の首頭で乾杯

### 「今年も宜しくお願いします」 平成9年新年互礼会

平成9年新年互礼会は、玉川村と玉川村商工会の主催でマーヴェラス末広にて開かれ、村内各界の代表者などを中心に約100名が出席して行われました。

車田村長と古寺商工会長から主催者代表のあいさつの後、各界の代表者からお祝いのことばが述べられました。会場では、新年のあいさつや今年の豊富などの話題に華を咲かせ、平成9年の門出を祝いました。また、アトラクションでは、新春に相応しい日本舞踊が佐藤清子さん（赫生）によって演じられました。

### 岩谷さんおめでとう 文部大臣賞受章祝賀会

岩谷浩光さん（小高）が11月19日に文部大臣より地域文化功労者表彰を受章されたのを記念して、文部大臣表彰受章を祝う会（石井庄八代表）主催による祝賀会がマーヴェラス末広で行われました。

祝賀会には、郷土史研究会や文化財審議会などの関係者約70名が出席。車田村長や福島県史学会の菅田会長、郡山女子大学の田中教授からお祝いのご挨拶が述べられました。岩谷さんは「皆さんにこのような盛大な会を開いて頂いて誠にありがとうございます。今後も微力ではありますが、地域の文化向上の尽くしたいと思っております」と話していました。



祝賀会のようす

### JAL 大阪便70万人達成

福島空港2階搭乗待合室にて、日本航空福島〜大阪便の利用者70万人達成セレモニーが行われました。ちょうど70万人目の搭乗者は、大阪市在住の棚木伸子さん（40）主婦でした。棚木さんへは日本航空から花束と記念品が贈られました。また、日本航空では、2月から3月には3路線合計で100万人に達成予定で記念の催しが行われます。



花束を贈られる棚木さん



銀色有功賞を手にする石井総務部長

### 献血推進団体で 中根精工(株)が受章

日本赤十字社では、このほど献血推進に積極的に取り組み、その功績が他の規範と認められる団体や個人への表彰を行いました。

本村の中根精工株式会社は、献血事業に対する功績が認められて、銀色有功賞が授与されました。献血活動を15年間にわたって継続的に実施してこられたことが評価を受けて、晴れの受章となりました。

### 人命救助を確実に 第一回救急救命講習会

玉川村消防団では、災害時の人命救助を確実に実践できるようにするための講習会を開きました。消防団各分団から団員22名が参加し、須賀川広域消防本部警防課の鈴木光治課長補佐ほか3名の講師が、講義と実技の指導を行いました。参加した各団員は、人命にかかわる指導であり、真剣な眼差しで受講していました。



人命救助の実技訓練

### 花愁短歌会と改称

本紙でお馴染みの「短歌会」の合同歌会が村就業改善センターで行われました。同短歌会は、中川西好幸さん（鮫川村）が主宰して、玉川村のほか鮫川村と古殿町で開設されており、この日は門下生が一同に集まったの歌会と表彰式が行われました。

また、同会は、この日から「花愁短歌会」と名称を改め、本村の教室は「花愁短歌会玉川支部」となりました。同支部では、毎月、就業改善センターで歌会を開いており、入会を希望される方は村公民館で随時受付をいたします。

プロフィール  
大正14年1月1日鮫川村生まれ。短歌の創作活動は17歳のとき読売新聞の読者投稿欄に投稿したのがキッカケ。その後、プランクがあり昭和59年に郡山市の市来勉氏に師事して、本格的に創作活動に入る。福島県文学賞正賞を受賞。現在、日本歌人クラブ会員、福島県歌人会常任委員。

### 唄って、踊って、楽しく!! 第5回チャリティ須釜芸能の集い

1月26日(日)午前9時30分から須釜公民館で須釜地区の11の芸能団体が一同に集結して発表会が開かれました。まず実行委員代表の大和田昭子さんよりあいさつが行われたあとそれぞれの団体から唄や踊り、ダンスなど50のプログラムが繰り広げられました。

なお、この日の益金は、社会福祉協議会に寄附されました。

- 参加団体は次のとおりです
- つぐみ会 ●スポーツ民謡会 ●南スポーツ民謡会
  - 三和会 ●しげる会 ●ダンスクラブ
  - 渡辺カラオケ ●若泉会
  - 加藤カラオケ ●北スポーツ民謡会

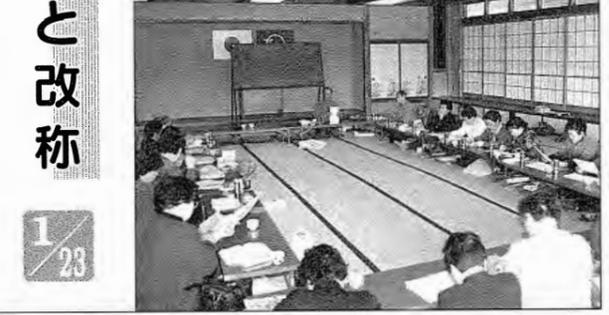
### 第五回チャリティー須釜芸能の集い



須釜芸能の集いでのひとコマ

### トピックス IN たまかわ

みなさんからの話題をおまちしています  
役場総務課広報広聴係まで



真剣なまなざしでの対局

### 第34回囲碁将棋大会

第34回新春玉川村民囲碁将棋大会は、玉川村就業改善センターで行われました。囲碁の部に15名、将棋の部に17名が参加して、それぞれクラス別（囲碁の部：A～Dの4クラス、将棋の部：A～Cの3クラス）に分かれての対戦となりました。

どの対局とも白熱した戦いとなり、場内は張り詰めた雰囲気漂っていました。なお、成績は次のとおりです。

囲碁の部		将棋の部	
(A級)		(A級)	
優勝	首藤三千雄	優勝	双里 正輝
準優勝	小針 悟	準優勝	矢吹 義隆
3位	小原 澄夫	3位	渡辺 宏
(B級)		4位	高原 泰司
優勝	吉村 安一	5位	双里 政博
準優勝	川田 正裕	(B級)	
3位	堀沢 美帆	優勝	近内 正雄
4位	川田 崇裕	準優勝	添田 良昭
(C級)		3位	関根 一之
優勝	野口 英一	4位	双里 正司
準優勝	増子 博之	5位	添田 友兄
3位	宗形 翔	(C級)	
4位	大槻 里美	優勝	添田 四郎
(D級)		準優勝	宗形 一寿
優勝	堀沢 結花	3位	佐藤 亮平
準優勝	野口 治	4位	佐藤 貴大
3位	宗形 麻美		
4位	大槻 亮平		



～成人式より～

2月・3月の健康ごよみ

- 2月
- 19日(水) 母親教室 ..... 保受須受
  - 午前9時15分～
  - 三種混合予防接種 ..... 保受須受
  - 午後1時～
  - 20日(木) 三種混合予防接種 ..... 保受須受
  - 午後2時
  - 21日(金) 1歳6カ月児健診種 ..... 保受須受
  - 午後1時30分～
  - 27日(木) ヘルシー教室(50代・60代対象エアロビクス) ..... 保受須受
  - 午後1時30分～
- 3月
- 6日(木) すくすくクラブ ..... 保受須受
  - 午前9時30分
  - 12日(水) 股関節脱臼検診 ..... 保受須受
  - 午後1時～
  - 13日(木) 三種混合予防接種 ..... 保受須受
  - 午後2時～
  - 14日(金) 乳幼児健康相談 ..... 保受須受
  - 午前10時～
  - 1歳児お誕生健診 ..... 保受須受
  - 午後1時～
- 保:保健センター 須:須釜公民館  
石:石川保健所 受:受付時間

伝言板

赤坂団地(川辺)宅地分譲

福島県住宅供給公社では、次のとおり宅地分譲の購入者を先着順受付で募集しております。

- ◆募集团地 赤坂団地…宅地分譲7区画
- ◆募集期限 平成9年2月28日(金)まで
- ◆受付場所 玉川村役場企画財政課 (TEL0247-57-4629)

寄付ありがとうございます

下記の方々から社会福祉活動資金として寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

●南須釜の大野好高さんから 1万円	●南須釜の大野重雄さんから 3万円
●南須釜の塩沢利一さんから 3万円	●岩法寺の石森浅一さんから 1万円
●森生の溝井永三郎さんから 3万円	●南須釜の塩澤ユキ子さんから 2万円
●吉の有賀政司さんから 2万円	●南須釜の金子好美さんから 2万円
●南須釜の小山田金義さんから 5万円	●北須釜の佐久間スイさんから85歳を記念して 1万円
●北須釜の須田福蔵さんから 5万円	●熊田藤作さんから福祉事業費として 9万円
●竜崎の小林正興さんから 3万円	●南須釜の関根幸孝さんから 1万円
●南須釜の大越幸久さんから 3万円	●北須釜の矢吹金一さんから 3万円
●竜崎の小林俊清さんから 2万円	

機械設備類貸与制度の概要

中小企業の皆さんが希望する機械設備類を希望するメーカー又はディーラーから公社が購入し、その機械設備類を長期かつ低利で割賦販売し、完済後は所有権を中小企業の皆さんに移転する制度です。(所有権留保付割賦販売)

●設備貸与(国の制度)  
(設備割賦)  
限度額 3,500万円(先端割賦 6,000万円)  
利率 年3.05%  
期間 4年6カ月以内(先端割賦 6年6カ月以内)  
支払方法 半年賦償還

●機械貸与(県の制度)  
(機械割賦)  
限度額 5,000万円(先端割賦 6,000万円)  
利率 年3.15%  
期間 4年6カ月以内(先端割賦 6年6カ月以内)  
支払方法 半年賦償還

●申込窓口 各市町村の商工担当課  
●申込期間 毎月1日～10日まで受付

お問い合わせ先  
財団法人福島県中小企業振興公社 設備貸与課  
TEL(0245)21-5527 FAX(0245)21-5635

自動車の登録(抹消・変更)はお早めに  
福島県中地方振興局県税部

自動車税は、毎年四月一日現在の陸運支局の登録内容(所有者住所等)により課税され、五月中旬に送付される納税通知書により、五月三十一日までに納めることとなっております。(今年は五月三十一日と六月一日が土曜日と日曜日になっているため、六月二日が納付期限になります。)

納付時期になりますと、当県税部に「廃車した(売った)自動車の納税通知書が届いた」「新しい住所地に納税通知書が届かない」などの問い合わせがたくさん寄せられます。抹消・名義変更、住所変更などの手続きを三月末日までに済ませておかないと、このように色々なトラブルが起きてしまいます。自動車を「売ったとき」「買ったとき」「譲ったとき」「譲られたとき」「廃車したとき」「転居したとき」などには、早めに登録手続きを済ませましょう。

なお、手続きの詳しいことについては、次のところにお問い合わせください。

「いわきナンバー」東北運輸局陸運支局 いわき自動車検査登録事務所 ☎〇二四六(二七)六一五一  
☆自動車税について  
福島県中地方振興局県税部 ☎〇二四九(三五)一一三三五

人生八〇年代の住まいづくり  
「バリアフリー住宅」をご存知ですか?

加齢とともに心身が弱ってきて、安心して自立して住み続けられるような住まいを「バリアフリー住宅」といいます。

バリアフリーとは、バリア障害がなく、誰でも利用できるという意味です。住宅であれば、段差がない、手すりが設置してある、将来、介護が必要となっても、改善しやすいような間取りになっている、といった配慮がほどこされたものをいいます。

からだに不自由になってから改造するのでは、金銭的にも大きな負担になりますし、家庭内事故で亡くなる方の数から、バリアフリー受託は、まさに「転ばぬ先の杖」。新築・改築の機会にはぜひ、バリアフリーの住まいづくりを。また、バリアフリー住宅にする場合、住宅金融公庫などの有利な融資制度も利用できます。詳しくは、福島県建築住宅課(☎〇二四五-二一七五三三)までお問い合わせください。

「にせ税理士」にご注意!

「にせ税理士」とは、税理士の資格がないのに、申告書の作成などを行っている人のことです。税金の申告手続きなどを依頼する際には、正規の税理士であるかどうかをよく確かめ、「にせ税理士」には十分ご注意ください。

タックスアンサーのコード番号は「九二〇四」(にせ税理士)にご注意です。



お早めに、春の確定申告。

3/17 (月)まで  
3/31 (月)まで

所得税の特別減税の適用をお忘れなく。

申告と納税は、正しくお早めに

お誕生おめでとうございます

(12月下旬期・1月届分)

地区	出生児氏名	保護者名
中	小針卓	周吉
岩法寺	矢部美来	宗貢
竜崎	岡部宏城	光春
南須釜	小林夕里子	光春
〃	眞野目侑子	セツ子
〃	杉山直大	隆幸
〃	小原あずき	明和
吉	須釜枝美	喜一

おくやみ申し上げます

(12月下旬期・1月届分)

地区	死亡者氏名	年齢	世帯主名
蒜生	溝井永一	81	男一
岩法寺	石森浅次	89	浅一
竜崎	小林長政	87	正好
南須釜	大野昭三	53	好高
〃	塩澤ハツミ	67	久美
〃	小山田ハシ	74	幸孝
〃	関根ヨシノ	74	幸孝
〃	眞野目義幸	33	義勝
〃	大野金雄	34	重好
〃	金子寅雄	81	好子
〃	澤田昌久	72	ユキ
〃	塩田助	74	福金
北須釜	須矢ハツチ	76	政一
〃	吉有	92	政一

村のようす (9年1月1日現在)

- 1,730戸(+1)
- 7,647人(-11)
- 3,746人(-7)
- 3,901人(-4)

村のようす (9年2月1日現在)

- 1,731戸(+1)
- 7,638人(-9)
- 3,737人(-9)
- 3,901人(±0)

今月の納税

固定資産税 第4期  
国民健康保険税 第8期  
国民年金保険料 2月分

【納期限は2月25日(火)です。忘れずに納めましょう!】

歌愁短歌会玉川支部佳作抄

村公民館

しんみりと昔を語る友なれどいつものまなこ丸くやさしきのばり来て茶屋より眺む湯の町の宿も小さき箱庭の中この世にぞ生まれて何かしらんと歌う歌にも才なかる身は天井板張り替えに大工の妻も来て息の合ったる作業が進む蜂の巣といえどもいまの孤独には親しみのあり窓に見守る病みあがり師や友との再会に歌のこころも湧くがにおもふ

真弓五三男  
白旗 隆  
曲山きくみ  
登那木きみ  
佐久間栄蔵  
柳沼 ツヤ

泉・須釜両中学校創立50周年記念特集 恩師を訪ねて ⑨

尾崎公雄先生

「勤務時期と担当教科を教えてください。」

「昭和38年4月から42年3月までです。教科は体育担当で未熟と若気の至りで『怒鳴り声』『正座』でヒンシュクをかっていたと思います。しかし、情熱と使命感は人に負けないものがあつたと思います」



福島市生まれ、福島大学学芸学部卒。泉中学校を振出しに福島市内5つの中学校に勤務。その間、県バレー協会理事、中体連県バレー委員長等を歴任。趣味は、読書。特技としては、バレーボール公認審判員、柔道3段。現在、福島市立立子山中学校に勤務(教頭)。福島市伏拝字沼上2-137に妻と長女の3人暮らし。56歳。

「純真で明るい生徒諸君であり授業には素直に取組み、各部活動、生徒会活動も活発でした。特に印象的なのは、植林の下刈り作業で雷雨にあい教師も生徒も全身びしょぬれで、学校に帰るなり水道水を浴びて急いで下校したことで

「課外の部活動は、女子バレーです。当時の部員の輝く瞳とひたむきな努力がその後の私のバレー一筋の教師生活のきっかけとなりました。中村

池のほとり、自転車小屋前の村道と接する凸凹のコート、脱脂粉乳の空き缶のボール入れ。劣悪な条件の中で常勝達田中を破り、決勝で沢田中に惜敗する快挙を体験しました」

「当時のお住まいはどちらだったのでしょうか。」

「小高東耕地の小川の吊り橋を渡った、溝井保三様一家のもとに下宿して通勤しました。溝井様には家族同様に面倒を見ていただきました。」

※このコーナーへの恩師の紹介を募集しています。



現在の折橋のようす(後方中央の塚は、古金塚)

シリーズ「たまかわの俗地名」  
『折橋』の由来(吉)

私の住む吉区内に『折橋』と言う俗地名があります。その場所は、古金塚と森和元さん宅の間の一帯を言います。ここには、今ではコンクリート造りの立派な橋があります。私が、私の子供の頃は、馬車がやと通れるくらいに道に掛かっている小さな橋でした。

この橋の名には、和泉式部の伝説があります。有名な歌人(現在の石川町曲木)に生ま

(須釜勝美)

東京玉川会コーナー

心に残る  
我がふるさと  
『我が町 我が故郷』

埼玉県上尾市  
高原和夫さん  
(小高出身・高原藤助さんの弟)



甥の結婚式にて(家族です)

立春も過ぎ、まだまだ寒い日が続きますが、故郷の皆さん、玉川会の皆さんお元気ですか? 私の住む町、埼玉県上尾市は、都心で働くサラリーマンのベッドタウンとして栄える人口二十一万の静かで住みやすい町です。近い将来は、政令都市になるそうです。東京玉川会には、友人の紹介で入会し、総会には、毎年出席しております。昔懐かしい先輩や聞き慣れた玉川弁で、「あんたどこだい」

「おれ小高だ」と云った、なごやかな会話が、あちこちから聞こえ楽しい雰囲気での総会です。昨年度は、役員も新しく変わりましたので、若い人達の入会を希望したいものです。年に、何回か、実家に帰りますが、田園に囲まれた国道ぞいも今は、スーパや、コンビニなどができ、発展して行く玉川村に、目を見張る思いです。子供の頃、学校から帰って柿の木に登り「パッサミ」でじくし柿を取って食べたり、雪が降ると、自分で作った竹スキーやソリ遊びなどで遊んだ事が懐かしく思い出されます。今では、福島空港もでき二千五百メートルの滑走路や、高規格道路が、五、六年後には、完成すると聞いております。自然に囲まれた住みやすい我が故郷が二十一世紀に向かって少しづつ近代化され発展して行く玉川村に、希望が、ふくらみます。本年も東京玉川会の総会で、お逢いできる日を楽しみにしております。